

Code Orange

—Save Life—

	代表者	久松健人 (医学B 4年)
構成員	永久成一 (医学B 6年) 佐村美穂 (医学B 6年) 浜辺龍太郎 (医学B 6年)	
	河生多佳雄 (医学B 6年) 矢田祥子 (医学B 6年)	
	西田彩華 (医学B 6年) 上野真帆 (医学B 5年)	
	木村剛 (医学B 5年) 佐伯晋吾 (医学B 5年)	
	坪根咲里依 (医学B 5年) 戸川文子 (医学B 5年)	
	仲野優 (医学B 5年) 宮崎由依 (医学B 5年)	
	鈴木潤一 (医学B 5年) 遠山直弥 (医学B 5年)	
	木本義敬 (医学B 5年) 小林諭史 (医学B 5年)	
	佐藤菜緒 (医学B 4年) 飛田野篤 (医学B 4年)	
	吉村知佳子 (医学B 4年) 薬師寺真生 (医学B 4年)	
	板坂美里 (医学B 4年) 緒方静 (医学B 4年)	
	久保直登 (医学B 4年) 川口晃 (医学B 4年)	
	下栗佳那美 (医学B 4年) 當間優生 (医学B 4年)	
	洪田渚 (医学B 4年) 山中雄城 (医学B 4年)	
	酒匂優嘉 (医学B 4年) 土肥聖未 (医学B 4年)	
	金谷妃呂子 (医学B 4年) 星澤早紀 (医学B 4年)	
	山元かなえ (医学B 4年) 高越寛之 (医学B 3年)	
	上田誠也 (医学B 3年) 加藤幸多 (医学B 3年)	
	植村愛子 (医学B 3年) 岡本菜奈 (医学B 3年)	
	倉田こなつ (医学B 3年) 苅田雅子 (医学B 3年)	
	馬場悠花里 (医学B 3年) 井上郁香 (医学B 3年)	
	上田大貴 (医学B 3年) 片山尚子 (医学B 3年)	
	松元耶子 (医学B 3年) 村岡晴範 (医学B 3年)	
	吉川友沙 (医学B 3年) 清山遥加 (医学B 3年)	
	石田眞子 (医学B 2年) 玉那覇育子 (医学B 2年)	
	津田貴子 (医学B 2年) 藤原麗 (医学B 2年)	
	荒谷友香 (医学B 2年) 猪狩真由 (医学B 2年)	
	魚谷若葉 (医学B 2年) 衛藤麻里子 (医学B 2年)	
	岡田伊代 (医学B 2年) 倉重理歩 (医学B 2年)	
	細田優海香 (医学B 2年) 竹内優佳 (医学B 2年)	
	津田詩織 (医学B 2年) 中尾弥里 (医学B 2年)	
	西原晴菜 (医学B 2年)	

1. 2016 年度上半期を振り返って

2016 年度上半期は以前より行ってきた活動に加え、新たなイベントへも挑戦し、新たに加入したメンバーと共に、日々切磋琢磨しながら BLS の普及活動に励むことができた。

2. 2016 年度上半期の主な活動内容

- 1) 組織運営の引き継ぎ
- 2) 新規メンバーの募集活動, 茶話会

- 3) ツール・ド・山口湾 2016 での救護ボランティア
- 4) 部活動講習会
- 5) 七夕祭での BLS 講習会
- 6) 第 2 回全国医学生 CPR 選手権大会中四国大会
- 7) その他定期活動

3. Code Orange 内での活動

1) 組織運営の引き継ぎ

本年度も昨年度からの体制を引き継ぎ、プロジェクト毎にプロジェクトリーダー（以下、PL）を設定し、その PL が中心となってプロジェクトを行っていった。PL は 1 つのプロジェクトにつき 2~3 人設定することで、一人一人の負担を少なくできる上、幹部メンバー全員が PL を経験することができ、幹部メンバーとしての自覚も高まると考えられる。

また、本年度よりサークル内の業務を委員会制度を設けることで細分化し、それぞれの委員に複数名を充てることにより、各個人の忙しさなどに合わせて活動に参加できるようなシステムを作った。

2) 定例会・定練会

Code Orange では週に一度、昼休みの約 20 分間を使って、メンバー内での学習会を行っている。上半期の内容は、新メンバーが加わったということで、成人 BLS、小児・乳児 BLS を中心に、基本となる内容の講義・実技を行った。そのほか、各イベントの報告・反省を行い、より良い講習会を作り上げるためにはどうすればいいのか、受講者アンケートの結果をもとに話し合った。

4. 医学部内での活動

1) 部活動講習会

昨年度同様、本年度も医学部学務課からの依頼に基づき、学生自治会と共同で、医学部学生を対象に BLS を行った。今年度は受講者 55 名に対し、17 名の構成員が講習を行った。昨年度と同様に本年度も構成員が多い部活からは 5 名、少ない部活からは 1 名とするなどして、なるべく多くの 2 年生に参加してもらえるような工夫を行った。4 月に新しく加入したメンバーもインストラクターとして多数参加し、練習会で身に付けた知識や経験を存分に発揮した。受講者のほとんどが BLS を行うのが初めてであり、この講習会を通して医学教育に貢献することができた。



部活動講習会参加メンバー集合写真

2) 頌徳碑清掃

Code Orange では、サークル設立当初から月に 1 回頌徳碑の清掃活動を行っている。頌徳碑とは医学生の解剖学実習に対し、御献体して下さった方々の御遺骨が収められている場であり、医学生として、その方々への感謝の意を忘れてはならない、という思いからこのような活動を行っている。本年度も引き続き毎月 1 度、清掃活動を行い、常に医学生としての自覚を持ち続けるようにした。

5. 医学部外での活動, 及び市民に向けた活動

1) ツール・ド・山口湾 2015

昨年度に引き続き参加したイベントで、山口市阿知須で開催されたツール・ド・山口湾 2016 に救護ボランティアとして参加した。大会開始前にコースを周回するスタッフの方に講習会を開催したり、参加者がけがをした時や、緊急のときのための AED 救護班として待機したり、一般の方向けの講習会を開いたりという盛りだくさんの内容であった。開会式の際には BLS 講習会の実施についてアピールをさせてもらうなど、市民の方との交流会を増やすことができ、BLS の重要性を発信できたことは非常に良い機会となった。昨年に引き続き、山口市でも活動を行うことができたこと、依頼をいただけたことは、Code Orange の知名度や信頼度が向上していると実感できた。



BLS 講習会会場での集合写真

2) 七夕祭

本年度も一般市民を対象とした BLS 講習会と、BLS の基礎知識に関するクイズコーナーを設置した。小さな子供から年配の方まで幅広い年代の方々に対して講習を行った。新メンバーを中心としたメンバーで講習会を運営して行ったことにより、経験を積むこともでき、Code Orange にとって得られるものの多かった七夕祭となった。

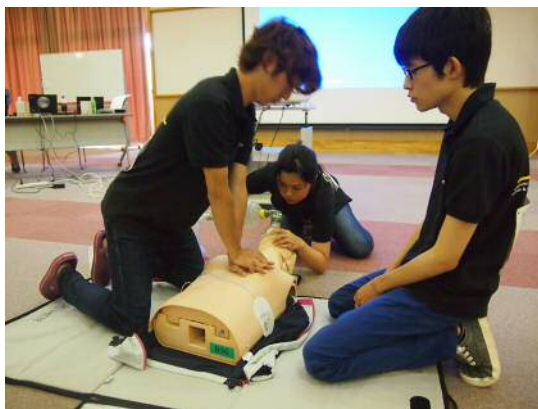


BLS 講習の様子

3) 第2回全国医学生 CPR 選手権大会中四国大会

本年度の新しいイベントの1つとして参加したもので、日本臨床救急医学会とレールダルメディカルジャパン共催で開催される、質の高い CPR を啓蒙するためのイベントである。5人1チームで幾つかの競技に分かれて CPR を行い、審査員のジャッジを受けた。自分たちの行った CPR が客観的に評価され、どこができてい

のか、どこができていない部分なのかを再発見できる良い機会となった。また、本年度購入した評価ツールの今後の活用の仕方についても明確なビジョンとして持つことができた。



CPR 選手権大会にて手技を行う参加メンバー

6. 2015 年度下半期に向けて

今期は「START LINE」をテーマに掲げ、①メンバー教育の充実②地域に根ざした活動を行うことに重点を置いて活動している。①のメンバー教育の充実に関しては、定例会や各イベント前の練習会や第2回全国医学生 CPR 選手権大会中四国大会での CPR の質の評価などで一定の成果があるものと考えられるが、全構成員がイベントに参加できているとは限らず、原則全員が参加することとなっている医学祭で、どこまでメンバーのレベルを高めていけるかが鍵となるだろう。本年度備品として購入した CPR を客観的に評価できるツールを有効活用していきたいと考えている。②の地域に根ざした活動については、毎年の活動である七夕祭に加え、山口市でのイベントのボランティアなどを行い、例年以上に地域に貢献できる活動を行うことができたと考えている。下半期にも医学祭や宇部駅伝ボランティアなどの活動が予定されており、そこでも積極的に地域に密着した活動を行ってきたい。